

履 歴 書

1. 「氏名」については、旧姓等の通称名を使用している場合、()書きで本名を併記してください。
「生年月日(年齢)」の欄の年齢には、作成日時点での年齢を記入してください。

2. 「学歴」の欄について

- ① 高等学校卒業以上の学歴(大学の別科及び専攻科を含む。)を有する場合、すべての学歴(授与された学位及び称号を含む。)を記入して下さい。
なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。
- ② 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

3. [学位・資格・免許等]の欄について

- ① 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。

学位における専攻分野の名称の表し方

例1) 「〇学修士」、「〇学博士」

例2) 「学士(専攻分野)」、「修士(専攻分野)」、「博士(専攻分野)」

※学位の名称は異なりますので、必ずご自身の授与された学位記を確認し、学位記通りに記入して下さい。

- ② 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、取得年月、登録番号も併記してください。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。

4. 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 「現在所属している学会」には、記入時において所属する学会の名称を記入してください。
- ② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

5. 「職歴」の欄について

- ① すべての職歴(自営業、主婦、無職等を含む。)を記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。大学において専任教員である場合の職名は、教授、准教授、講師、助教、助手のいずれかを記入し、非常勤講師の場合は「非常勤講師」と記入して下さい。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 過去における文部科学省の教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称(大学院にあつては、判定結果を含む。)を記入してください。また、過去における高等専門学校教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。
- ⑤ 大学教員等の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

6. 「賞罰」の欄には、学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

教育研究業績書

1. この書類は、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等の業績について作成してください。
2. 「氏名」については、旧姓等の通称名を使用している場合、()書きで本名を併記してください。
3. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」の欄について
「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称(研究分野・細目表)を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。
4. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について
 - ① 「事項」の項には、各区分に該当する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。
 - ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
※日にちまで記入してください。
 - ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。
 - ④ 「教育上の能力に関する事項」の例
 - ア 「1 教育方法の実践例」について
 - 授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等
 - 司法研修所等の教育機関における教育経験
 - イ 「2 作成した教科書、教材」の例
 - 授業や研修指導等で使用する著書、教材等
 - ウ 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」
 - 採用決定の際等における評価内容
 - 各大学における自己点検・評価での評価結果
 - 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果
 - エ 「4 実務の経験を有する者についての特記事項」
 - 大学から受け入れた実習生等に対する指導
 - 理学療法士会等の職能団体の依頼による研修指導等
 - 訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
 - 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
 - オ 「5 その他」

- 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
 - 国家試験問題の作成等
- ⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例
- ア 「1 資格、免許」
- 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの
- イ 「2 特許等」
- 特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの
- ウ 「3 実務の経験を有する者についての特記事項」の例
- 大学との共同研究
 - 訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の担当実績
 - 各種審議会・行政委員会、各種ADR等の委員
 - 行政機関における調査官等
 - 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
 - 調査研究、留学、海外事情調査等
 - 上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等
- エ 「4 その他」
- 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
 - 論文の引用実績等
- ⑥ 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。(コピーを添付)

5. 「研究業績等に関する事項」の欄について

- ① 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものは記入できません。
- ② 「著書、学術論文等の名称」の項について
- ア 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。
- イ 著書については、書名を記入してください。
- ウ 学術論文については、国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。
- エ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。
- オ 査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
- ③ 「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。
- ④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。
- ⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について
- ア 著書については、発行所を記入してください。
- イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記して下さい。
- ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。
- ⑥ 「概要」の項について

ア 当該著書等の概要を200字程度で記入してください。

イ 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名(下線を付すこと。)を含め著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入してください。

(用紙 日本工業規格 A4 縦型)

教育研究業績書

(別表1)の名称を
記入して下さい。

平成24年7月15日

氏名 ○○ ○男 印

研究分野	研究内容のキーワード	
○○○学	○○○○○○○○○	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 (1) ○○が参加した○○学と○○体験, ○○方法体験	平成10年4月1日～ 平成14年3月31日	○○大学○○部○○学科において○○に実際に授業に参加していただき、状況と実際の起居移動と、その○○方法の体験。実際に面談し触れ合うことにより、○○像を明確にし○○や○○に有用である。
2 作成した教科書, 教材 (1) ○○学(○○出版)	平成18年5月1日 発行	代表的な○○と○○を解説。 ○○や○○などの○○領域別の○○、○○での○○の○○実施における特殊技能を解説。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (1) ○○大学 ○○学科 学科長 ○○○夫	平成14年4月1日～ 平成18年3月31日	○○を対象とした○○実践の教育方法を、当該○○を○する種々の方法と日常生活における○○学習および○○、これら相互要素の関連付けの仕方を視野に入れながら開発しており、○の連携を推進する人材育成を目指している本学において、該当教員が○○学等担当としてその教育能力を発揮している。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 公開講座(○○大学)○○について	平成20年10月15日	○○について○○を講演、実技を兼ねる
5 その他 (1) ○○啓発ビデオ作製 ○○協会「○○週間」 一般, 学生向け○○紹介ビデオ	平成9年6月15日	○○の仕事内容, 将来性, 受験内容について, 一般の方や大学生, 高校生向けに○○を紹介したビデオ。(○○省と協賛)
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格, 免許 (1) ○○士免許	昭和 58 年 5 月 1 日	登録番号○○○○号
2 特許等 (1) 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) ○○大学紀要委員	平成 14 年 4 月 1 日～ 現在に至る	○○大学紀要の編集・製作担当委員
4 その他 (1) ○○県○○健康フェア ○○県○○会と共同開催	平成 18 年 11 月 15 日～ 平成 18 年 12 月 15 日	○○市○○会と共同し○○市民に対し○○を実施し、対象者に結果をフィードバックした。市民に対し○○に対する啓発を行った

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 ○○プロフェッショナル ガイド	共 著	平成 15 年 5 月	○○堂 編集 B6 版 P.1165	○○に対する、○○現場で役立つ マネジメントの全てを掲載。接遇から実 際の○○について各部分事に著者が 解説。 本人担当部分は、○○の○○を担 当し、○○の対処法を解説。第○章、 ○節、題名○○○○、P.12～P.15 [著者名] ○○○○、○○○○、他 194 名
		<p>著書が共著の場合は、 本人担当部分の章、節、題名、 掲載ページを「概要」に入れる。</p> <p>著者名は著書に記載された順に記 入し、本人の氏名には下線を付す。</p>		
(学術論文) 1 ○○経験、○○可動 域	単 著	平成 2 年 9 月	○○○○ 第○巻、○号 P.○○～P.○○	○○に対するの○○可動域の変化 と○○についての検討。○○の可動性 は、○○に何らかの問題がない限り、 ○○程度で○○の状態に回復する。 ○○に必要な○○の可動性は、○○ ○○。○○や○○の代償を考慮すると ○○必要となる。
		<p>学術論文の場合、雑誌の名称、巻・号、 掲載ページはこちらに入れる。</p>		
2 ○○の○○法	共 著	平成 14 年 10 月	○○と展望 16 第○巻、○号 P.○○～P.○○	○○の例に対し、自宅での○○を指 導し、○○的に評価し、その○○につ いて効果を検討した。1 年間○○を行 い○○に合わせて継続的に○○を行 った結果、○○は維持された。このよ うな○○に対する適切な○○は、○○に 有用であることが示唆された。 担当部分：○○分析と考察、第○ 章、○節、P.○○～P.○○ [著者名] ○○○○、○○○○、○○○○
		<p>共著の場合、 本人担当部分の章、節、題名、掲載 ページは「概要」に入れる。</p>		

(その他) (学会発表) 1〇〇と〇〇の展望	単 独	平成11年11月	第〇回〇〇大会 P.145 東京:〇〇会館	〇〇や〇〇に関する現状を明らかにする。次に〇〇の使用感や使い勝手について、その問題点と実際の使用経験の基づく工夫などを紹介し、実用のための必要事項を浮き彫りにしている。
------------------------------	-----	----------	-----------------------------	--